

寄贈品コーナー「人文部門新資料展」 5/2(木)～6/2(日)

博物館では、毎年春に新資料展を行い、この一年間に新たに寄贈された資料を展示しています。本紙ではこのうち民俗分野の展示資料を紹介します。

自転車 当館で初めて資料として自転車を受け入れました。寄贈者は、茅ヶ崎市下町屋在住の鈴木喜八郎さんで、昭和11年に秦野中学校へ入学したときのお祝いに、大磯で買ってもらったものです。鈴木さんはこの自転車に乗って、大磯の自宅から約13kmの道のりを毎日秦野中学まで通いました。当時は、だいたい自転車も普及しており、大磯から通う同級生の半数以上が自転車で通学していたといいます。冬は霜どけで泥だらけになったり、雪の上で横転したり、また昔の金目川は増水するとしばしば土手が切れたので、水に浸かりながら走ったりと、通学途上の思い出がたくさん染み込んでいる自転車です。

戦前の主な自転車メーカーには、宮田、丸石、岡本、山口、日米富士などがあり、安い自転車は20円くらいからありました。鈴木さんの自転車は岡本のノーリツ号で、当時58円で購入しました。日米富士は憧れの的の高級車で、110円くらいしたそうです。オカモトの特徴はメッキが良く錆びにくかったことで、鈴木さんは昭和41年に二台目の自転車を購入してからも、手入れを重ねてノーリツ号に乗り続けてきました。サドルのスプリングが折れて寄贈されることになりましたが、補修すれば現在でも乗れる頑丈なつくりです。鈴木さんは、「1936→2001年 65年前」と記した木札と、赤いリボンを自転車につけて、博物館へ贈ってくださいました。



鈴木喜八郎氏とノーリツ号

郷土玩具コレクション 夕陽ヶ丘の近野毅氏から寄贈された全国郷土玩具コレクションは整理がほぼ終わり、膨大なコレクションの全貌が明らかになりつつあります。総点数は1,183点で、分類すると土鈴が295点で最も多く、土人形も相当数あります。いずれも昭和30年代以降に収集された玩具であり、単品だとさほどの価値は無いのですが、まとまったコレクションになると資料価値が生じてきます。それぞれの玩具を通して、各地の風土や歴史を垣間見ることができたり、人々はどんな物に願いを託してきたのかなどを探ることができます。

近野氏のコレクションは沖縄県を除く全国各都道府県から隈無く集められており、産地が特定できた資料を県別に見ると、最も点数が多いのは神奈川県で97点です。次いで福岡県の62点、東京都の53点、京都府の44点、奈良県の42点、宮崎県の36点と続いており、やや西高東低の感があるようです。福岡県が突出して多いのは、博多市の泥面子が30点ほど収集されているためです。郷土玩具は有名な寺社から縁起物として授けられるものが多く、歴史の古い町や観光地に優れた郷土玩具が存在しているといえます。

神奈川県は、全国的に見ると郷土玩具の乏しい県なのですが、地元ということで県別で最大の点数が収集されています。市町村別に見ると鎌倉市が49点で最も多く、大塔宮鎌倉宮の板獅子、杉本寺と宝戒寺の板守り、長谷寺の身代わり土鈴、鶴岡八幡宮の鳩土鈴など由緒ある玩具が少なくありません。また、一般に相模土鈴と称される土鈴を手がけていた相沢伊寛氏の店が鎌倉にあり、その作品が25点収集されています。鎌倉市に次ぐのは平塚市の33点ですが、これは鎮守三島神社などから購入した絵馬が占めていて、いわゆる郷土玩具はありません。展示では、郷土玩具と絵馬による神奈川の小さな小さな旅をお楽しみいただきたいと思います。

その他の資料 氷の冷蔵庫（千石河岸 飯尾和敏氏）、念仏用具（花水台 新山章一郎氏）、洗濯板と盥（夕陽ヶ丘 大谷耕三氏）、イチッコ（南原 遠藤延雄氏）などを展示する予定です。